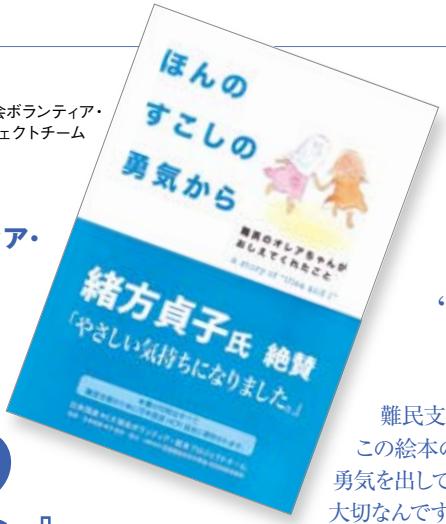
絵本

©日本UNHCR協会ボランティア・
絵本プロジェクトチーム



日本UNHCR協会ボランティア・
絵本プロジェクトチーム

『ほんのすこしの勇気から』

難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと

A story of "Olea and I"

本書には、次のようなコメントが寄せられている。
（敬称略）

難民支援は何も特別なことではなく、
この絵本の少女のように、ほんのすこしの
勇気を出して、友達に手を差し伸べる気持ちが
大切なんですね。皆さんにもきっとできることが
たくさんあると思います。
ぜひ、世界の様々な人々に対して心を開き、
勇気を出して一歩を踏み出してください。

緒方貞子
（元国連難民高等弁務官）

●

この本を読んで、みんなにもっと知ってほしい、
世界のこと、自分のこと、そしてみんなの幸せのこと

菊川怜
（UNHCR駐日事務所スペシャルサポーター）

●

ひとりの歌手として、ひとりの人間として心がゆさぶられました。
僕も、勇気を出していきます。

森進一
（歌手）

●

こどもたちに『たのしい』と『うれしい』をあたえるには、
おとなの『ゆうき』が必要なんだね

ホンジャマカ
石塚英彦
（タレント）

2005年、グテーレス難民高等弁務官に
絵本『ほんのすこしの勇気から』が贈呈された。
緒方貞子元難民高等弁務官と二人そろって記念写真。
©日本UNHCR協会

「この絵本は、日本UNHCR協会でのボランティア活動で出会った、職業も生活圏も異なる人たちとともに、全く自発的に作ったものです。誰にたのまれたわけでもないのに、この本を作ることはいつしか、私の中でどうしてもやらなければならないことになっていました」

絵本『ほんのすこしの勇気から』は、戦争が起きている国から転校してきた難民のオレアちゃんの隣の席になった「わたし」が「ほんのすこしの勇気」を出すことで、次第に心を通わせていく物語である。人の痛みを感じられるあたたかい涙とやさしさにあふれた作品だ。日本国連HCR協会（当時）が2004年に企画した「助っ人講師養成講座」に参加した小口みすずさん（旧姓：岩森）が「誰にでも分かりやすく、しかも共感してもらえる本を作って、難民問題への理解を世の中に広めたい」と助っ人講師のメーリングリストで呼びかけ、手をあげた7人と共にプロジェクト・チームをつくり、初めて絵本制作に取り組んだ。

2005年6月20日「世界難民の日」を記念して刊行されて以来、人々の手から手へと共感の輪が広がりつつある。

2005年秋には久保純子アナウンサー朗読による貸出用DVDができ、11月にフォーラム「難民支援と国際理解教育」にて披露された。また、2006年11月の第2回フォーラムでは、題材として募集した読書感想文コンクールの表彰式が行われ、入賞者3名が自分の作品を壇上で読み上げた。

小口さんは、この1冊の絵本作りを通して、思いと勇気の力に気づいたという。「今回巡り合ったメンバーは皆、ずっと心の中で何かをしなくては、と思い続けていた人たちです。原稿をまとめる、デザインを手がける、イベントを企画する、ひたすら本を広めて歩く。皆がそれぞれの得意分野において全力疾走してきました。ほんの少しの勇気を出して一歩を踏み出すと思いが現実のものになり、世界の見え方が変わっていきました」

本書の印税はすべて難民支援活動にご寄附いただいている。

関連情報：
http://www.japanforunhcr.org/data/orea.html
絵本購入に関するお問合せ先：
（株）求龍堂（TEL 03-3239-3381）
定価　1,000円